

MIFA だより

発行：NPO 法人三春町国際交流協会
発行日：令和6年10月20日(日)

Miharu International Friendship Association

昨今の国際交流協会とその活動状況

新型コロナの流行に伴い世界中が大きな影響を受け、私たちの生活も例外ではありませんでした。三春町の行革などもあり、そんな中でのNPO 法人三春町国際交流協会の活動でしたが概略をお知らせします。



理事長: 御代田 裕紀

- 三春町国際交流館ライスレイクの家の管理運営が三春町に戻され、国際交流協会との委託管理契約が解除されました。宿泊事業などもなくなりました。
- 町内中学生を対象とした英語弁論大会が令和5年度に20回を重ねました。12月2日にまほらホールでマリンバ演奏・モンゴルの馬頭琴演奏の世界の音楽コンサートと合わせて記念大会を開催しました。
- 昨年夏 ハワイ州マウイ島の大規模火災が発生して多くの被害がありました。三春町との交流があり国際交流協会でも募金活動を進めました。本年マウイ島の郡長さん一行が福島県を訪れた5月21日に義援金として募金で集まった11万円を贈呈しました。
- 令和6年3月には会員研修を兼ねていわき市国際交流協会と活動内容や活動状況の紹介と意見交換などして交流を深めました。「今後も会員研修を」の声も聞かれました。
- 5月23日(木) 通常総会を開催しました。三春町長様はじめ来賓を迎えて令和5年度の事業・会計報告と令和6年度の事業計画案・予算案が審議され提案通り承認されました。役員改選も行われ、御代田裕紀、石川直子、遠藤俊一、山口晋司、渡邊由美子、沖津次朗の6名が理事に選任されました。
- 新型コロナも法定伝染病 5 類に位置付けられて 1 年が経過し、三春町と共催でライスレイク市に派遣するアメリカサマーキャンプが実施できることになりました。7月下旬から8月上旬に12名の中高校生を派遣し、9月には一般の親善訪問団を送ることも計画しています。

会員不足はどの団体でも頭を抱える共通の課題です。NPO 法人化された当協会も例外ではありません。創立37年になった三春町国際交流協会は県の国際交流協会に1年先んじて設立され、三春町や三春町民を代表する機関にもなっています。会員皆さんの継続した支えと新たな会員の加入によって更に充実した事業運営が可能となります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

駆け抜けました 37 年

副理事長 石川 直子

1987年1月に三春町国際交流協会は、誕生いたしました同年7月に姉妹都市を締結し、さらにその6年後の1993年にライスレイクの家が建てられました。思えば三春町国際交流協会も間もなく40周年を迎えようとしています。この間にはたくさんの楽しい出会いがありました。悲しい別れもありました。

私は当時5歳児4歳児0歳児をかかえ子育て真っ最中でしたので、私の国際交流は子供たちが成長するまでの約20年間は、外国から来町されるお客様を自宅に招き、入れ我が家でその滞在をお世話するというホストファミリーとしての国際交流が主でした。

その間、1993年には三春に居ながらにして異文化にふれよう！の国際交流館ライスレイクの家も建てられ、ライスレイクの家は2008年までの15年間に7人のマネージャーが姉妹都市から招聘されました。

【ライスレイクの家】初代マネージャーがパトリア・ジュランドさんです。

三春町民なら誰もが皆さん良くご存じの方ですよ。私もこのパトリアさんとの出会いがその後長きに渡って三春町国際交流協会を牽引していく礎となりました。

特に「ライスレイクの家」がオープンしたはじめてのころ、日本語もままならないアメリカ人が管理人としてライスレイクの家に着任しその彼女が体験する異文化摩擦や想定外のギクシャクは国際交流後進国の日本の三春町民が遭遇するはじめての国際交流の難しさでした。そのため私は彼女とも相談してこれらの直面をやわらげ三春町民とのより良い交流をしていただくため彼女をサポートする【Rice Lake House responsible ボランティアグループ】を結成することとなりました。1993年5月のことです。当時日本にボランティアという言葉はあまり浸透していませんでした。

これは1956年時の大統領アイゼンハワーが提唱した、国際交流の理念による【草の根のレベルでの交流を通じて市民相互理解を深めることで世界平和の実現を目指す】がパトリアさんの国際交流に対する理念と一致したものではなかろうかと思えます。

その後、初代マネージャパトリアさんとサポートボランティアによつて「ライスレイクの家」の〈室内のワックスかけ〉や〈家具のみがきかた〉〈ベッドメイキングの仕方〉〈マフィン〉〈スコン〉〈クッキーの作り方〉〈北米の冬の夜の過ごし方パッチワーク〉〈豆スープ〉〈ワイルドライス〉などボランティアのみなさんとともにそこからひろがった町民のみなさんとアメリカの文化 伝統 カルチャーなどさまざまなものが伝えられました。そしていつも彼女が発信していた国際交流の精神【Love and peace and friendship】も伝えられ、それらが MIFA の活動のなかに受け継がれ伝えられてきています。「ライスレイクの家」の存在と国際交流への貢献度は計り知れないものがありました。



2020年、三春町はライスレイクの家の利用の仕方を変更しました。最近町民の方から訴えが MIFA にも届くようになりました。「最近のライスレイクどうなってるんですか？輝きを失いつつあるライスレイクの家が寂しいです」との声です。町民の方々は2020年からのライスレイクの家を良く理解していないようです。

三春町の国際交流の歴史・経験・実績、これらは全て先人の方々の優れた「郷土愛・世界愛・平和・友情」など他所にない、三春町の誇るべき文化ではないでしょうか。三春町におかれましてはライスレイクの家を使い方を町民ががっかりしないようよろしくお願いいたします。

令和6年度『三春町青少年国際理解教育推進事業』に共催いたします

副理事長 遠藤 俊一

グローバル化する世界と社会へ柔軟に対応し、日本と経済や文化などの面でつながりが深い国と交流し、異なる文化や習慣を尊重し合うことの大切さを理解すると同時に、国際感覚を身に付け、国際化を積極的に推進する人材の育成を目指します。

アメリカ短期留学（第13回サマーキャンプ）

- 目的 中学生・高校生を対象に、三春町青少年親善使節団として、三春町の姉妹都市であるアメリカ合衆国ウィスコンシン州ライスレイク市を訪問することにより、姉妹都市交流への意識を高め、今後の活動に参加する人材育成及び外国における生活、文化体験をとおして国際理解を育成する。
- 対象 三春町内在住中・高校生及び三春町立中学校在学学生
- 派遣期間 アメリカ合衆国 ウィスコンシン州ライスレイク市・ミネソタ州ミネアポリス市
- 活動内容
 - ・ライスレイク市の家庭にホームステイしアメリカの生活や様々な文化を体験
 - ・ホストファミリーや市民との交流 ・学校や公共施設、文化施設の見学
 - ・アウトドアアクティビティ、フィールドトリップ ・活動についての報告書作成（9月～2月）等



スプーナー市



ライスレイク湖



オークレア大学にある滝桜の子孫樹

三春町中学生国際理解教育プログラム

- 目的 ネイティブティーチャーによる研修、グループワーク、英会話スキルアップ、異文化理解、SDGsの観点からの学習や体験を行うことにより、三春町の国際交流を推進すると同時に積極的に英語を使って自己や三春町の特色、学校生活について発信する人材を育成する。
- 対象 三春町内在住中学生及び三春町立中学校在学学生 12名程度 ※8月に新規募集
- 開催期間 令和6年9月から令和7年2月まで 月1回程度
※原則、土曜日 18:00～19:30（1時間30分程度）
※内容によって「小学生イングリッシュプログラム」との合同開催
- 場所 三春交流館「まほら」・三春町国際交流館「ライスレイクの家」
- 内容
 - ・三春町や学校生活についての英語によるプレゼンテーション作成・発信（グループワーク）
 - ・英会話コミュニケーションスキルアップ（講師／ALT（三春町英語指導助手））
 - ・姉妹都市ライスレイク市との交流（オンライン）
 - ・SDGsについての学習（日本と諸外国との関係や生活習慣・文化の比較）
 - ・「東京アメリカンクラブ」会員との交流及び学びの発信等

三春町小学生イングリッシュプログラム

- 目的 英語によるコミュニケーションをとおして、異文化に触れ、楽しみながら積極的に英語を使おうとする意欲や関わろうとする態度を育成するとともに、広い視野に立って物事を考える素地を育成する。
- 対象 三春町内在住小学生 及び 三春町立小学校在学学生 5・6年 ※12名程度、8月に新規募集
- 開催期間 令和6年9月から令和7年2月まで 月1回程度
※原則、土曜日 16:00～17:30（1時間30分程度）
※内容によって「中学生国際理解教育プログラム」と合同開催
- 場所 三春交流館「まほら」・三春町国際交流館「ライスレイクの家」
- 内容
 - ・英会話によるコミュニケーションスキルアップ ・英語の絵本を声に出して読むグループワーク
 - ・英語によるオリジナル絵本の作品制作、発表 ・「東京アメリカンクラブ」会員との交流
 - ・姉妹都市ライスレイク市との交流（オンライン）等

声を力にして

理事 渡邊 由美子

理事を仰せつかってから早くも5年の月日が流れ、その間、新型コロナウイルス流行での事業の縮小はあったものの、微力ではございますが会の活動の計画そして実施に携わらせて頂き心に残り、いつも感心させられている事があります。それは、毎年行われている英語弁論大会に出場される中学生の姿です。

大会当日は外国人審査員の先生方を始め、会場に集まった大勢の方々に前にそれぞれ選んだ発表の題材を暗記しジェスチャーを交えての英語発表は、大きな決断・努力なしにはできない事であり、忙しい時間を割いて何十回、部分的には何百回と担当の先生の指導を頂きながら繰り返し練習をしている事でしょう。

当日もまほらのガラスに自分の姿を映して本番直前迄リハーサルをする姿を目にしますと、全員緊張する事なく練習の成果を発揮できます様に…全員一位になって欲しい！と毎年思ってしまう。大会という名の下、順位はついてしまいますが、発表をする生徒さん全員の姿は凛としてとても輝き、力を与えて頂いております。

この大会を通して英語学習へのモチベーションを高めた生徒さん方が今後も益々ご活躍され、将来大きく国際社会へと羽ばたきます事を願ってやみません。

もう1つ心に残っておりますのが、3月に行われました会員研修会です。町バスをお借りして、いわきの国際交流協会へ訪問し、参加された皆様方と見聞と交流を深めて参りました。会員の方々が顔を合わせて交流できる機会がなかなかありませんでしたので、とても有意義な時間を過ごせた様に思います。

今後もこの様な催しや、どなたでも気楽に足を運んで頂けるイベント等を企画・運営できないかと模索している所であります。ご意見ご要望をお聞かせ頂いたり、今後共どうぞご協力を宜しくお願い致します。

三春町の在留外国人数を調べて思うこと

理事 沖津 二郎

国際化や少子高齢化、さらには2019年4月に導入された「特定技能」制度に伴い、我が国では長期的に外国人労働者が増加することが予想されている。福島県内でも外国の方を見る機会は年々増えていると感じる。同意見の方が多いであろう。一方で、三春町内で外国の方を見かける機会は他地域よりも少ないと感じる。そこで、在留外国人のデータで、三春町や福島県内の外国人の数を調べてみた。

福島県内の在留外国人の統計データは、県が公開している。最新データは2023年(令和5年)で、三春町の在留外国人は72人で、福島県59市町村で三春町の在留外国人数は上位32番目であった。最新データも気に入り、三春町役場の住民課に教えて頂いた。2024年(令和6年)1月末時点の在留外国人は9カ国90人で、中国、ベトナム、インドネシアの方が多いそうである。三春町の人口は2024年6月1日で16,337人である。つまり現在の三春町における在留外国人の人口割合は0.55%となる。

三春町周辺の自治体のデータはどうなっているだろう。在留外国人数と人口は、郡山市3,332人(人口321,674人)、二本松市637人(人口51,320人)、本宮市297人(人口29,930人)、田村市343人(人口33,069人)、小野町159人(人口8,765人)で、これら市町の在留外国人割合は約1%を超え、三春町の約2倍以上である。小野町では1.81%、つまり約50人に1人は在留外国人となっている。ちなみに県全体の在留外国人は17,783人で、在留外国人割合は1.01%である。また、県内の2011年(平成23年)から2023年(令和5年)の人口推移は、県人口が11%減少している一方で、在留外国人は86%増加している。

三春町で他地域よりも外国人が少ないとは感じる判断は、データの的には妥当であった。では、今後はどうなっていくのであろう。三春町周辺市町の在留外国人割合は三春町より少なくとも約2倍は多い。この多さは産業構造の違いが影響しているとは思ものの、三春町の在留外国人数は昨年から2割以上増加していることから、三春町の在留外国人は今後増加していくであろう。外国人在留者が少なかった地方圏では、外国人と日本人との共生に向けた準備が必要といわれる³⁾。外国人を地域社会の一員として受け入れるスタンスの醸成、外国人固有の生活ニーズの充足、地域社会に溶け込めるようフォローなども必要である。本協会には長年にわたり国際交流活動に取り組んできた実績、そして活動に賛同頂いている会員がいる。今後はこれまでの経験・理解者を活かして、在留外国人と地域との橋渡しする活動を、本協会の重要な役割に位置付けていく必要があると考える。なお、在留外国人割合が高い小野町は三春町と人口規模も似ている。今後の取り組みについて、小野町の現状と課題の把握が参考となる可能性もある。

引用文献

- 1) 福島県ホームページ統計データ。
- 2) 町広報紙「みはるが好き」令和6年7月号。
- 3) 持続可能な地域創生に向けた外国人住民施策について—新在留資格「特定技能」創設を機に求められる社会統合—, JRIレビュー 2019 Vol.6, No.67。

これからの多国間交流

理事 山口 晋司

三春町国際交流協会がNPO法人化した時に、理事を仰せつかった山口です。それまでは国際交流とは無縁でして、そこから三春町の国際交流の歴史や今までの活動を学び、非力ではありますが頑張っています。ライスレイク市との姉妹都市締結が1987年～ですので、今年で37年の月日が経過しました。発足間もない時期、弟が中学生サマーキャンプ(第2回)に参加していますが今年で50才になります。当時と今で大きく違うのが「情報の伝達手段」だと思います。当時は高額な国際電話での時間を気にした会話や手紙。今ではインターネットを通せばリアルタイムに情報が行き来し、さらには瞬時に英語等を自動翻訳で「言葉の壁」がなくなってきています。現在の技術をふんだんに利用し、「誰でも気軽に参加できる三春町の国際交流」になっていければ最高だと思います。



第2回 サマーキャンプ(1989年)
僕の弟です。



第20回 三春町中学生英語弁論大会

第20回になる、三春町中学生英語弁論大会を開催しました。1年生 :6名 2年生 :6名 3年生 :2名、合計15名が参加されました。みなさんの英語スピーチ能力は非常にレベルが高く、体全身を使ったパフォーマンスも素晴らしかったです。



1年生の部

- 1位: 鈴木 雫句さん(岩江中)
- 2位: 渡辺 千野さん(三春中)
- 3位: 金田 莉依さん(三春中)

2年生の部

- 1位: 宮武 あこさん(三春中)
- 2位: 井堀 芽衣さん(岩江中)
- 3位: 阿部 有優実さん(三春中)

3年生の部

- 1位: 小山 賢士さん(三春中)
- 2位: 深澤 真司さん(岩江中)
- 3位: 松崎 百彩奏さん(岩江中)

第20回 記念コンサート — 音楽で紡ぐ世界 —

英語弁論大会開催20回の記念コンサートを同日に開催しました。～音楽で紡ぐ世界～と題し、マリンバ奏者の奥平哲也氏、馬頭琴奏者のバラヤト氏(モンゴル出身)に演奏いただきました。

マリンバ奏者
奥平 哲也



馬頭琴奏者
バラヤト
モンゴル出身



マウイ島被災見舞い募金箱の設置 見舞い金の寄贈をおこないました。

令和5年8月8日にアメリカ合衆国ハワイ州マウイ島で大規模な火災が発生し、家屋やオフィスが消失するなど多くの死者や負傷者が出て多大が被害をもたらしました。ハワイ州と三春町の縁は古くはハワイ移民の父と称される三春町出身の勝沼富造氏が日本からの移民の世話に尽力され、新しくはマウイ太鼓と三春盆太鼓の交流やマウイ島の高校生の三春町訪問、ハワイ福島県人会メンバーの三春町訪問などがありました。



● マウイ郡郡長へ、見舞い金と目録をお渡ししました。



● マウイ島支援募金は、皆さまの協力により、合計 1,13,010円を集める事ができました。
(新聞記事) 福島民友新聞社 令和5年11月21日

いわき市国際交流協会と 情報交換会を開催しました。



● いわき市国際交流協会では、アジア圏（ベトナム等）からの就労者のサポートなどもおこなっています。

姉妹都市看板 町内4カ所に設置されています。



● 看板は、ライスレイクの家前・三春駅前、国道288号線バイパスに2ヶ所、合計4ヶ所に設置されています。

NPO法人 三春町国際交流協会 役員名簿	
理事長/ 御代田 裕紀 副理事長/ 石川 直子 遠藤 俊一 理事(会計担当)/ 渡邊 由美子 理事(庶務担当)/ 山口 晋司 理事/ 沖津 二郎	監事/ 三瓶 文博 加藤 康子 相談役/ 白岩 良子 田部 洋靖